**１号新任教育資料⑧－巡回の方法**

**1.巡回時の留意点**

・ドアを開けて、内部に入ったらそのドアを必ず施錠する。

・ドアを開けるときは、

「ドアの向こう側で賊がバールを振り上げて待ち構えている」と心する。

 階段を上がるときも同じ。

・トイレは個室だけでなく用具室も確認。

・部屋に入るときは照明をつけて入り、出てから照明を消す。

・廊下・階段は照明をつけてから入り、向こう側で照明を消す。

・鍵は左手を添えて右手で操作し、左手を添えて右手で抜く。

 差し込んだ鍵を使ってドアを開いてはいけない。

・固い場合は無理をしない。(マスターキーは溝が深いので破損しやすい)

・作動が渋い箇所は休日に潤滑剤で作動をよくしておくと閉場業務が楽になる。

・開錠前に「施錠されていたか・開錠されていたか」を確認する。

・施錠後に必ず手でドアやノブを動かして「施錠されたこと」を確認する。

・施錠・開錠中は背中が無防備になるので背後に注意する。

 （襲われたら、鍵と生命だけでなく信頼性も奪われる）

・ハンドライトは左肩に構える。

・警棒は右腰やや後。

・常に襲撃に備える。

※警備員検定の教科書より

・屋外の巡回は明るい電灯や月明かりの中の歩行をできる限り避け、

 不審な徴候、不審者の気配が感じられたら、物陰か暗がりの中に身を置いて

その実態の確認に努める。

・建物の角を曲がる場合は、曲がる手前で数秒間停止し、

耳を働かせて安全確認をしてから大きく曲がる。

・巡回中は自分の足音、ドアを開閉する音に注意する。

 不必要なライトの点灯を避け、巡回の行動を察知されないようにする。

・窓の未施錠を発見したときは、まず室内から外部を目視点検し、

 さらに窓から顔を出し、周囲を充分に目視点検する。

・所定の時間に巡回していて異常な音・臭い等を感知したら

その原因を最後まで突き止める熱意を持つ。

・「音なきに聞き、姿なきに見る」

**2.実技訓練**

・設定

 巡回中、カバンを持った顔を見たことのない職員らしき人物に遭遇。

 このエリアで時間外執務の届は出ていない。

①警備員

『おつかれ様です。お仕事ですか？』

・不用意に近づかない。

・相手の挙動に注意して間合いを取る。

・ハンドライトで顔を照らさない。

②不審者

『巡回ごくろうさん。やっと仕事が終わったからこれから帰るところだよ。』

・といって立ち去ろうとする。

③警備員

『どちら様ですか？このエリアで時間外執務の届がでていませんが？』

・やんわりと相手を制止する。

・ただし、相手に立ちふさがらない。相手の逃げ道を開ける。

④不審者

『ごめん、ごめん。急に仕事が入ったので届をしなかったのだよ。』

⑤警備員

『そうですか。次回からすぐに届を出してください。

それから、規則ですので社員証を拝見できますか？』

⑥不審者

・ポケットから社員証を取り出して見せる

⑦警備員

『総務課の山本様ですね。確認しました。』

⑦不審者『じゃあ、これで』

※このあと警備員は何をすればよいかを各自考えて実技に加える。